

# 癸気揚揚

第14号

## 限界を作らない

今年も一段と暑さが厳しい夏でしたが、生徒の皆さんにとっては、どのような夏休みだったでしょうか。部活動や勉強だけではなく、普段できないことにも挑戦した人もいることでしょうか。命を脅かすような暑さもあと数日もすれば秋の気配を感じる季節になると思いますが、皆さんが過ごした夏の経験が今後の生活に生かされることを期待しています。

さて、「挑戦」と言えば、その人が目標とする乗り越えるべき大きな壁を意味したり、並大抵な努力では成し遂げられないことから自分への鼓舞にも使ったりしますが、すでに皆さんも御存じのとおり、九州で開催されたインターハイでは、本校の相撲部、陸上競技部、アーチェリー部が、自己の限界に挑戦し、輝かしい成績を収めました。私も応援に会場まで足を運びましたが、挑戦する生徒の姿はとても眩しく、頼もしく見えました。

この夏、オリンピックがパリで開催されました。卓球競技では、最高齢61歳のルクセンブルグ代表のシャリャン・二選手がトルコの31歳の選手に勝利しました。年齢という限界に挑戦し、見事、その壁を乗り越えた結果ではないかと感じました。

先日、新聞の一面に43歳でテニスの男子ダブルス世界ランキング1位になったインドのボパンナ選手を紹介する記事を見つけました。長年の競技生活で痛めた膝と向き合いながら大会出場を続けたボパンナ選手は、「私は限界を作らない。」と言っています。

私は生徒の活躍やこの記事を見て、年齢を理由にできないと思い込んでいたことが多くあることに気付き、一大奮起して、ずっと前からやりたかったスキューバダイビングのライセンスに挑戦しました。水深3メートルのプールで約15キロのボンベを背負い、練習します。水圧は想像以上に重く、浮くことも歩くことも辛くなります。回数を重ねて少しは慣れるだろうと思いましたが、身体への負担は地上の数倍で、酸素ボンベで呼吸しているのにも関わらず息が苦しくなることもありました。でも、これまで自分には年齢的にも、能力的にも限界で無理だと思っていたことへの挑戦と、生徒が必死に限界に挑む姿が重なり、「自分に負けない」と心を奮い立たせていました。その成果もあり、無事にライセンスを取得し、海の散歩を楽しめることができるようになりました。私の挑戦は、生徒の皆さんの努力に後押しされ、弱い自分に勝てた気がします。

皆さんは、これからの世代を生きる若いエネルギーに満ちています。勉強もスポーツも自分が「無理だよ」と思っていることでも、その壁を打ち破る勇気があるはずです。自分の可能性を信じ、あらゆる不可能に挑戦してください。

限界など、絶対はないんですから…。頑張れ新田生！

令和6年8月

